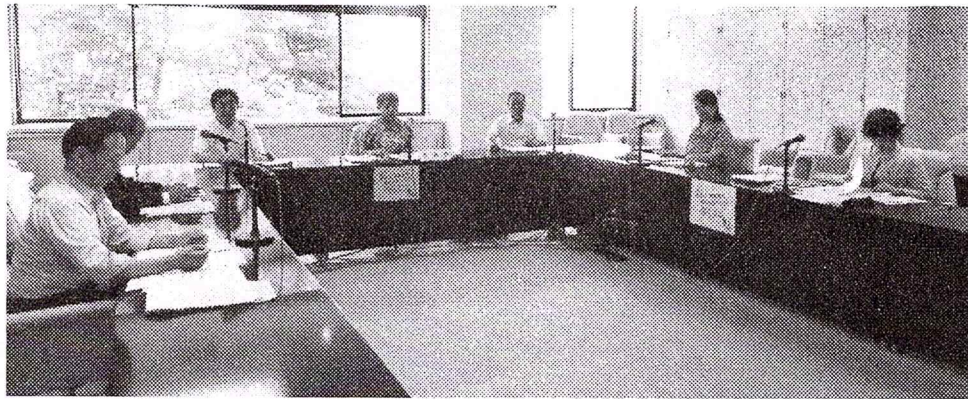


多賀城

新図書館はどうあるべきか...

— 27日、文教厚生常任委員会で審議へ —



8日、文教厚生常任委員会

8日午後開かれた文教厚生常任委員会で、全日本年金者組合多賀城支部齊藤規夫支部長より提出され、柳原清、戸津川晴美両市議が紹介議員となり6月議会で同委員会に付託された「国民年金法等の特例水準の解消を実施しないことを国に求める意見書提出の請願」が審査されました。

昨年11月16日に成立した「国民年金法等の一部改正」により今年10月から3年間で国民年金老齢基礎年金等の2.5%引き下げが行われる予定となっており①老齢基礎年金等の特例水準(2.5%)の解消として平成25年10月1%、平成26年4月1%、平成27年4月0.5%の年金引き下げ及び②ひとり親家族、障害者等の特例水準(1.7%)についても同様引き下げられることになっています。同請願はこの2項目の引き下げを中止することを国に求めるもの。

紹介議員の柳原清市議が提案理由を説明後、各委員より質疑、採択が行われました。柳原市議は「公的年金を受給している高齢者の56.7%が年金収入のみで生活しており、すでに消費者物価指数の下落により2年続けて支給額引き下げが行われており、低所得者の

年金受給者への影響は非常に深刻。物価が下がっているというのがその要因はテレビ、パソコン、冷蔵庫、エアコンなどであり、電気、灯油、食料品、生活必需品は値上がりしており、食費が主要な支出になっている高齢者の実態とかけ離れている。物価がかつてない勢いで上がっている時に年金を引き下げることがあってはならない」と説明。各委員からは「年金引き下げを行わないことは将来世代に負担を先送りするもの」(公明党委員)「(年金引き下げを行わなければ)年金財政は破綻する。一カ月にすれば引き下げ額は数百円でありお年寄りには我慢してもらおう」(自民党委員)との意見が出される一方「年金生活者は貧困ライン以下がほとんど、子どもの貧困の連鎖を生み出す」(昌浦委員)、「引き下げは高齢者の生活実態を無視したもの。若者に希望が持たなくなり消費も冷え込ませる。国連は政府に年金制度を充実するよう勧告を出したが今度が初めてではない」(戸津川委員)などの意見が出されました。しかし採決の結果賛成2(戸津川、昌浦委員)、反対3(米沢、江口、阿部委員)で否決されました。

「あなうれしにもかくにも生きのびて戦いやめるけふの日にあふ」。『貧乏物語』で有名な経済学者河上肇が1945年8月15日の日記に書きつけた歌である▼河上が『貧乏物語』に啄木の「はたらけど／＼はたらけど猶わが生活樂にならざり／＼と手を見る」を引用したのは有名であるが、自身、歌・漢詩を好んだ。ことに漢詩学者の海知義さんは明治以降の漢詩人では漱石と双璧という▼河上は1879(明治12)年10月20日、現岩国市に生まれ山口高等学校文科から東京帝国大学法科大学政治科に入学。職を転々とした後1908(明治41)年に京都帝国大学の講師となり以後経済学の研究を続け教授になる▼河上が京都帝大の教授を辞し日本共産党へ入党したのは1932(昭和7)年の夏。「とうとうおれも党员になることが出来たのか」と次の歌を詠む。「たどりつきふりかへりみればやまかはをこえてはこえてきつるものかな」▼検挙されたのは1933(昭和8)年、出獄は1937(昭和12)年。実践は断念し漢詩研究と漢詩作に没頭した。終戦時にはひどい栄養失調に陥っており翌年の1月30日死去。以上68回目の終戦の日に河上肇を考えた次第...

8日の審議では「伊万里を直接手に取って見ることで、市民図書館を視察したが、読み聞かせスペースに感動した。図書館をまちづくりの中心に据え、子どもを育てるために学校とも連携することが重要、子どもが本が付きようだがこれは悪いところは排除しないと

「あなうれしにもかくにも生きのびて戦いやめるけふの日にあふ」。『貧乏物語』で有名な経済学者河上肇が1945年8月15日の日記に書きつけた歌である▼河上が『貧乏物語』に啄木の「はたらけど／＼はたらけど猶わが生活樂にならざり／＼と手を見る」を引用したのは有名であるが、自身、歌・漢詩を好んだ。ことに漢詩学者の海知義さんは明治以降の漢詩人では漱石と双璧という▼河上は1879(明治12)年10月20日、現岩国市に生まれ山口高等学校文科から東京帝国大学法科大学政治科に入学。職を転々とした後1908(明治41)年に京都帝国大学の講師となり以後経済学の研究を続け教授になる▼河上が京都帝大の教授を辞し日本共産党へ入党したのは1932(昭和7)年の夏。「とうとうおれも党员になることが出来たのか」と次の歌を詠む。「たどりつきふりかへりみればやまかはをこえてはこえてきつるものかな」▼検挙されたのは1933(昭和8)年、出獄は1937(昭和12)年。実践は断念し漢詩研究と漢詩作に没頭した。終戦時にはひどい栄養失調に陥っており翌年の1月30日死去。以上68回目の終戦の日に河上肇を考えた次第...

8日開かれた文教厚生常任委員会(佐藤恵子委員長)で新図書館建設が議題となり各委員から「多賀城市らしい図書館とはどうあるべきか委員会の中で議論し教育委員会、市当局に提言すべき」との意見が多数出され27日午後1時30分より審議することが決まりました。



題字は池田和京さんにご揮毫いただきました。

日本共産党 多賀城市議団 多賀城市留谷一丁目11番23号 代表(364)3222 FAX(309)3910

◇弁護士による法律相談 ◇申込電話で予約して下さい。◇電話 364-3222 ◇相談日 8月21日(水) 8月29日(木) ◇時間 午後1:30~ ◇場所 旧阿部福商店となり塩釜県民の会事務所

◇議員による暮らしの相談 電話 藤原益栄議員 368-6623 070-6497-6623 佐藤恵子議員 367-0182 090-2027-9884 柳原きよし議員 368-1883 090-2605-4984 戸津川はるみ議員 090-7528-2075

東風城月

「あなうれしにもかくにも生きのびて戦いやめるけふの日にあふ」。『貧乏物語』で有名な経済学者河上肇が1945年8月15日の日記に書きつけた歌である▼河上が『貧乏物語』に啄木の「はたらけど／＼はたらけど猶わが生活樂にならざり／＼と手を見る」を引用したのは有名であるが、自身、歌・漢詩を好んだ。ことに漢詩学者の海知義さんは明治以降の漢詩人では漱石と双璧という▼河上は1879(明治12)年10月20日、現岩国市に生まれ山口高等学校文科から東京帝国大学法科大学政治科に入学。職を転々とした後1908(明治41)年に京都帝国大学の講師となり以後経済学の研究を続け教授になる▼河上が京都帝大の教授を辞し日本共産党へ入党したのは1932(昭和7)年の夏。「とうとうおれも党员になることが出来たのか」と次の歌を詠む。「たどりつきふりかへりみればやまかはをこえてはこえてきつるものかな」▼検挙されたのは1933(昭和8)年、出獄は1937(昭和12)年。実践は断念し漢詩研究と漢詩作に没頭した。終戦時にはひどい栄養失調に陥っており翌年の1月30日死去。以上68回目の終戦の日に河上肇を考えた次第...